セシウム汚染牛に関し自主検査の動き

当面3センター実施

8月1日の出荷分から

エスフーズ

エスフーズは、「おいしさと健康を愛する魅力あるスタミナ食品をもって世界に貢献する」を社是に掲げて、健康・安全に留意した経営を行っており、この度の「放射性物質に汚染された稲わらを給与された牛の流通」に関する対応を発表した。概要は次のとおり。

当社姫路ミートセンター、船橋ミートセンター、関東ミートセンターの3カ所で、8月1日入荷分から、すべての牛枝肉に対して放射能の自主検査を行い、政府の定める基準値を下回る牛肉のみを出荷する。また、7月末の在庫についても、自主検査を行う。当社の他のミートセンターについても、順次検査機器を導入し、全ミートセンターでの自主検査を進める予定である。

※前記検査に使用する機器は、BNC社製SAM940スペクトルサーベイメータである。※姫路ミートセンターに入荷する枝肉のうち、姫路市食肉センターで解体された牛肉は、と畜業者と共同で検査し、検査済証が発行される予定である。また当該牛肉については、姫路市保健所でも抽出検査が行われる。

沖縄・宮崎県産以外を

検査機器の導入も準備

ミートコンパニオン

ミート・コンパニオンは7月27日、牛肉から暫定規制値を超える放射性セシウムが検出されて以降、流通各社で東日本産の牛肉の扱いを見合わせる動きが相次いでいる問題を受けて、8月1日からグループのアグリス・ワン和光ミートセンターでと畜される同社が扱う牛肉のうち、沖縄、宮崎県産を除く全頭を対象に放射性セシウムの検査を実施することを決定した。

検査は外部の検査機関に依頼、検査費用は当面の間、出荷者とミートセンターの折半により実施することとするが、これらの負担費用に関しては後日、可能な限り賠償請求の対象となるよう関係団体を通じて折衝していく。

検査の結果、暫定規制値を超過する商品を流通させないことは当然のことながら、流通する商品の外箱に「放射性セシウム検査済み」のシールなどの添付や検査結果報告書を添付することにより、購買者が安心して購入してもらえるよう準備を進める。

加えて、自社でもセシウム検査が可能となるよう、アメリカ・ORTEC社製の検査機を購入する準備も進めている。納期は最短でも1カ月かかる見通しで、検査指導をして検査員の養成などにも多少の時間を要するが、自社で検査体制を整えることで、自主検査として1日あたり最大30検体の検査が可能となる見込み。

同社は現在、すでに一部の当該牛肉については外部の検査機関に依頼してセシウム検査を実施しているが、「国や行政の対応が後手に回り、有効な対応策がみえない中、もはや検査済みの商品しか流通しない体制を整えるほか、風評被害の広がりを食い止められない」と判断した。

今回の対応は「国内BSEの際もそうだったが、あくまで国の方針が示されるまでの緊急的な措置ととらえている」（近澤靖英・執行役商品改革責任者）と

全頭検査を発表する村井専務と近澤執行役（右）

検査済み牛発売開始

トップバリュ黒毛和牛

イオン

イオンは自社PBの「トップバリュ　国産黒毛和牛」で放射性物質に対する全頭検査を開始し、7月28日から関東地区のイオン、マックスバリュ計115店舗で検査済み商品の販売を開始した。

ことし5月に発売した「トップバリュ　国産黒毛和牛」は飼料や水のモニタリング検査により、安全性を担保した商品として提供してきたが、稲わらから暫定許容値を超える放射性セシウムが検出されている状況を受けて、村井正平専務執行役は「国産牛肉の不信感を払しょくするためには全頭検査を実施し、売り場で検査済みであることを提示する必要がある」と記者会見した。

さらに「いまの政府や行政の対応は責任追求や補償問題に終始し、消費者の安全・安心は二の次といっても過言ではない。人的、経済的、時間的コストがかかっても全頭検査し、安全を確信してもらえる仕組みを自ら構築しなければ『消費者代位業』の使命を果たせない」と強い姿勢を示した。

具体的には、牛1頭ごとに採取した検体を簡易検査し、汚染の疑いのある牛を除外。その後、2次検査（ガンマ線スペクトロメトリーによる核種分析法）により放射性物質を測定する。測定後、暫定基準値以下の牛肉のみがPCセンターを経て店頭に出荷される仕組み。

測定結果は店頭で提示されるほか、イオンのホームページ上でも検査結果を公表していく。1検体に必要なサンプルは900㌘～1㌔。検査費用はイオンが負担することとし、現状では全国5カ所の第三者検査機関で週あたり350頭を測定する。

8月1日からはイオンリテールのイオン全店での販売に拡大。その後、生産者の協力のもと、出荷量を2倍近くに増強し、8月中にも全国のイオン、マックスバリュ全店舗（約1千店舗）で販売する体制が確立する見通し。同社の直近の牛肉売上高は前年比100％。豪州フェアではタスマニアビーフが140％と伸張した。

なお、ホームページで商品ごとに測定結果を公表するシステムが構築されるまでの間は、「どの商品の検査結果報告書なのか混乱を招く恐れがある」（広報）ことから、POPにより売り場で検査済みであることを掲示する。システム構築後はPCセンターでパックごとに検査済みのシールを添付する予定。